

令和7年 第3回 定例会

令和7年第2回定例会以降における町政の主なものについてご報告申し上げます。

最初に、お手元に第2回定例会以降における工事発注一覧表を配付しておりますのでご照覧ください。

次に、三松正夫記念館 三松三朗館長のご逝去について申し上げます。

壮瞥町名誉町民、故三松正夫様の遺志を継ぎ、在野にありながら、火山と共生する、人づくり・まちづくりのため、献身的にご尽力を賜りました、三松三朗様が7月29日、逝去されました。

三松様は、壮瞥町教育委員会委員、町防災会議の有識者としての活動をはじめ、北海道大学の火山の専門家とともに、自然や火山を体験的に学習する事業を企画するなど、防災、自然環境、教育など幅広い分野で、ご活躍されました。

継続して実践された取組により、平成12年有珠山噴火では、事前の住民避難につながり、こうしたご功績に対し、平成19年には防災担当大臣から防災功労者表彰を、このほか文部科学大臣表彰、環境大臣表彰など多くの表彰を受賞されております。

町としましては、三松様が提唱した「火山との共生」への思いを、住民の皆さまをはじめ、洞爺湖有珠火山マイスターの皆さまとともに受け継ぎ、火山と共生する人づくり・まちづくりを推進してまいり所存であります。

生前のご活躍に、心から感謝申し上げ、安らかな眠りをお祈りします。

次に、要望活動についてご報告申し上げます。

まず、7月3日、4日、室蘭地方総合開発期成会として、北海道開発局、北海道などに、また、7月23日、24日には、国土交通省北海道局、道路局、財務省等をはじめ、道内選出国會議員に対し、令和8年度の国費等の要望を行いました。

本町としましては、国道453号の交通安全施設等の整備、道道洞爺湖登別線サンパレス工区の早期完成、有珠山外環状線の整備として、道道滝之町伊達線の橋梁架け替えと道路整備の促進、道道洞爺公園洞爺線の異常気象時の通行規制の解消や道路幅員の確保等について要望を行いました。

また、壮瞥町単独で、道道洞爺湖登別線サンパレス工区の早期完成、道道滝之町伊達線、道道洞爺公園洞爺線の整備促進に加え、道道洞爺湖公園線の歩道整備について、8月8日に、戸田安彦北海道議會議員へ、8月20日に、胆振総合振興局及び室蘭建設管理部登別出張所に、9月1日には、北海道建設部に対し、要望を行ったところであります。

行政報告

はじめに、火山防災に関する啓発事業についてご報告申し上げます。

8月26日の火山防災の日に、北海道大学名誉教授宇井忠英先生をお招きし、有珠山噴火講演会・勉強会を開催しました。

「洞爺湖・有珠山の火山活動史」をテーマにした講演会には、町民、火山マイスター、関係機関等の約30人の方々が参加されました。

また、10月5日には、火山噴火を想定した、防災訓練を計画しており、職員による避難所開設や、避難した住民の受入訓練等を予定しており、こうした事業を継続し、地域防災力と防災意識の向上に努めていく所存であります。

次に、令和7年度、北海道消防操法訓練大会についてご報告申し上げます。

7月18日に北海道消防学校で開催された令和7年度北海道消防操法訓練大会に

胆振代表として13年ぶりに壮瞥消防団が出場し、見事に優良賞を受賞しました。

本大会は消防団員による消防操法訓練を行い、消防技術の向上及び士気の高揚を図り、消防活動の充実強化に寄与することを目的に、北海道及び北海道消防協会の主催で開催されており、今年は全道から12の消防団が参加しています。

出場した壮瞥消防団は、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮し、昨年6月の胆振大会優勝に続き、優秀な成績を収められました。団員の皆さまのご努力に敬意を表するとともに、今後のより一層のご活躍を期待しております。

次に、りんごまつりについてご報告申し上げます。

町の知名度向上や新たな来訪者の獲得を図るため、令和5年度からアニメキャラクターを壮瞥町りんご大使に迎え、果樹園等をめぐる、スタンプラリー形式による「そうべつりんごめぐり」が開催され、道内外を問わず、遠方からも数多くの方が来訪されました。

今年度は、10月10日から11月16日までの間、昨年度と同様に「そうべつりんごめぐり」が開催されるのに加え、町民の皆さまや近隣の住民の皆さまに、町の農産物等を、より一層身近に感じていただくため、10月19日に、道の駅に隣接する広場で、農産物等の販売やアトラクションの実施など、小規模ではありますが、「そうべつ物産市」の開催が予定されています。

町としましては、りんごまつりが発展を遂げながら、持続的に開催できるよう、引き続き支援してまいります。

次に、「ふるさと逸品協定」に基づく交流事業についてご報告申し上げます。

昨年7月に、大阪府泉佐野市と当町の間で締結された「協定」に基づき、本年6月1日（日）に、泉佐野市りんくうアイスパークにて開催された「全国物産館まるかじりジャパン」において、当町の特産品である、りんごジュースなどの農産加工品を出品し、総額40万円ほどの売上がございました。

9月には、現地での直接販売イベントへの出店も予定しており、今後もこうした相互のイベント機会を捉えた交流を通じ、魅力発信に努めてまいる考えです。

次に、デジタルスタンプラリー事業についてご報告申し上げます。

デジタルを活用した販売促進や買い物をされる方の町内周遊活性化を目的に、スマホを使ってデジタルスタンプを集める「そうべつスマホd eスタンプラリー」を8月1日から開始しております。

参加店は、町内の商店や果樹直売所など、7月31日現在で53事業者におよび、9月30日までの2か月間の実施期間であることから、町内での買い物や滞在時間の延長など、その経済効果が期待されているところです。

町では商工会などと連携し、広報での周知を図るなど、その効果を最大限に引き出せるよう引き続き努力していく所存です。

次に、壮瞥中学校の完成記念式典等についてご報告申し上げます。

新校舎の完成を祝う記念式典及び内覧会を本年7月26日に実施しました。

教職員や生徒及び関係者115人が出席した記念式典は、新校舎の玄関前でテープカットを行った後、吹奏楽部のオープニング演奏に始まり、式辞の後、戸田道議会議員及び高橋胆振教育局長の祝辞、記念品と感謝状の贈呈を行い、永堀壮瞥中学校校長の挨拶で締めくくり、式典後、出席者を対象とした内覧会を実施しました。

同日午後からの町民の皆さまを対象とした内覧会には、地域の皆さまや卒業生、児童生徒など122人の参加を得て実施され、参加者からは「安全で快適な素晴らしい校舎ができた」などの感想をいただきました。

中学校整備に関し、ご理解とご協力をいただいた全ての皆さまに感謝を申し上げますとともに、今後は、充実した学習環境を生かし「そうべつ型小中一貫教育」の推進に、より一層取り組む所存であります。

次に、フィンランド国ケミヤルヴィ市訪問団の来訪についてご報告申し上げます。

本町は、平成5年5月に友好都市宣言に調印し、平成7年から中学生フィンランド国派遣事業を実施し、平成8年5月にはケミヤルヴィ市からの訪問団受入をはじめ、雪合戦交流など、相互交流を実施してきたところであります。

ケミヤルヴィ市からの来訪は、新型コロナウイルス感染症の影響で、8年ぶりとなりますが、このたびの訪問団は、市長及び議長を含む大人5人、学生18人の計23人で、10月13日（月）から16日（木）まで本町に滞在する予定です。

その間、小中学校での交流や町内視察をはじめ、両自治体代表者の会談のほか、交流事業を計画しておりますので、皆さまの積極的な参加をお願いするとともに、今回の交流が、双方にとって有意義な機会になることを期待しております。

以上、令和7年第2回定例会以降における町政の主なものについてご報告いたします。